



曹洞宗 管長  
大木山永平寺 貫首

福山諦法

華開いて世界起る



梅花新聞【香里】  
第31号

題字 管長 福山諦法 禪師  
発行者 洞 英 徳  
発行所 曹洞宗 宗務庁  
企画編集 伝道部 詠道課

お誓い

- ・私達は梅花流詠歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠歌を通して、明るい世の中をつくります。

「正法眼蔵」「梅華」の巻を、拝読して思いますに、釈迦牟尼仏陀を老梅樹と為し、仏弟子及び衆等を華と見立てれば、梅華は夫々が仏性を具えて活動し、春を開き忽ち世界を起して莊嚴していることに気づかされます。

釈尊は金波羅華を拈じ、如淨禪師と両祖大師は梅華樹に托して正法(真理)を説き示されました。年の始め凛とした寒気の中で、梅花の咲く処、誰もが新春を祝ぎます。

新年明けましておめでとうございます。

昨冬寒苦を耐え忍んだ古木の枝は、嫩芽を生じ蕾となり次いで、梅花の清香を発しました。

仏弟子あるいは善男善女の皆様、ひたすら修行したがゆえに開いた淨信の花と申せましょう。一枝が五葉と繁り、やがて必ずや菩提の果を結ぶものと信じます。

宗門の梅花流詠歌は創設以来、



先蹤の人々の御苦勞と陰徳の奉行によつて伝えられた仏道と想います。

一鉦を打し、一鈴を振るにも、丁寧に真心をこめて修したいものです。調身調息調心をもつて詠唱するならば、坐禪の威儀にも契うはずだと思ひます。

皆様は正装のうえに、梅花紋のお袈裟を掛け戴いている篤信の方々です。

どうか胸にも心地にも梅花を咲かせ、しかもその清さを誇らず、香りほのかに楚々とした御精進を続けられますよう。

梅花詠道の下、人々が安らぎ、世界平和の風が起りますことを切望いたします。



# 平成二十年度梅花流全国奉詠大会

福島県営あつま総合体育館 平成二十年五月二十八日・二十九日



平成二十年度梅花流全国奉詠大会は、西に吾妻連峰を望み、東に阿武隈川が南北に流れる緑豊かな福島県営あつま総合体育館で開催されました。五月二十八日・二十九日の両日で全国から約一万二千名がご参加され、みなさん笑顔で会場にお越しくださいました。

## ■第一部 開会式

オープニングでは野口英世博士のお母さん、野口シカさん役の語り部によるお話しのあとルンビニー幼稚園(一日目)と、わかき幼稚園(二日目)の園児たちによる献灯献花を行いました。副大会長河村松雄伝道部長が開会の言葉を述べ、福島県昌福寺梅花

講今村キヨさん(一日目)、福島県常泉寺梅花講佐藤美仁子さん(二日目)にお誓いの奉唱司をおつとめいただきました。

開会法要の大導師は、曹洞宗管長大本山永平寺貫首福山諦法禅師さまがおつとめくださいました。その後、相見の拝をし、「垂示(お言葉)」を賜りました。



お誓い(二日目) 佐藤美仁子さん



お誓い(一日目) 今村キヨさん



福山諦法禅師さま



献灯献花



開会の言葉を述べる河村松雄 伝道部長

■ 第二部 式典

大会長の湖英 徳宗務総長が式 辞を述べ、つづ いて吉岡棟憲福 島県宗務所長よ り歓迎の言葉を いただきましたし た。



歓迎の言葉 吉岡棟憲福島県宗務所長

■ 第三部 追悼奉詠

故・永田正道正伝 師範の功績を讃え、 梅花講審議会委員と 梅花流専門委員によ る「誓願御和讃」が 奉詠されました。



追悼奉詠

■ 第四部 登壇奉詠

大会両日合わせて二十八組の登壇奉詠が 行われました。登壇後に義援金のお願いがあ り、四百四十六万五千三百五十二円が集まり ました。ご協力いただきました皆様には心か ら御礼を申し上げます。ありがとうございます。

■ 第五部 清興

地元出身の民謡歌手原田直之さんと民謡 グループ「吉田桃媛会」による「民謡で綴 るふくしま故郷自慢」と題したコンサート、 そして、地元保存会による「会津白虎隊」 の剣舞が行われました。



民謡歌手 原田直之さん



会津白虎隊

■ 第六部 閉会式

詠讃師による「坐禅御詠歌(浄心)」の独詠、 その後に副大会長河村松雄伝道部長から閉 会の言葉と、来年の大阪府舞洲アリーナで の開催を発表 しました。最 後は「まごこ ろに生きる」 の大合唱で ファイナールで す。



参加者と絆を深める大会長

平成20年度 梅花流全国奉詠大会 収支報告

収入の部 平成20年11月末現在

項目No.	項目	項目計
1	梅花大会参加費	¥58,755,000
2	梅花紋使用契約金	¥459,252
	収入合計	¥59,214,252

支出の部

項目No.	項目	項目計
1	会場借用諸費	¥3,305,385
2	企画設営諸費	¥27,000,000
3	記念品費	¥9,907,830
4	大会役員諸経費	¥9,804,544
5	プログラム・外	¥2,908,542
6	事務費	¥1,867,536
7	清興・オープニング	¥1,260,700
8	開催準備費	¥3,117,492
	支出合計	¥59,172,029

収入合計	¥59,214,252
支出合計	¥59,172,029
差し引き	¥42,223

お帰りの際、福島県の参 加者全員が座席から最後まで で小さな旗 を振って見 送っていた だきました。



福島県のみなさんが旗を振ってお見送り



笑顔の湖英徳宗務総長

# 新亡精霊供養御和讃

大会にご参加されたみなさまから、新曲の新亡精霊供養御和讃をお唱えされた想いをお話いただきました。

## 別れの涙頬つたう

去年主人を亡くしました。私のためにこの曲があるように思えます。一周忌を控え涙が止まりません。

友人の七七忌にお唱えいたしました。涙と一緒に胸に込み上げてきました。

お通夜の時、この曲でご供養しようと思いを聞いただけで、涙が溢れ出てきてしまいました。周りのすすり泣く声、年で正座が痛い、涙で目が霞んで教典が思うように見えない、自身、精一杯なんとかお唱えをさせていただきました。ご遺族さまから「新亡精霊のメロディーに乗って旅立って行くことができました」と、お礼の言葉を頂戴いたしました。

## あなたに逢えたよるこびと

四十九日までのご供養に、亡き人を偲んでいつも口ずさんでおります。親しい友人や知人にご不幸があったとき、お悔やみの言葉と共にお唱えさせていただき感謝されています。

身近な人が亡くなった時にお唱えしますが無念でなりません。それでも別れはとても辛いけど・・・その人を思い出せる曲です。

## 回らし手向けんみほとけに

悲しみを誘います。心の奥底に響く曲で、胸がジーンとしました。

終わりのない悲しみの奥深さと、その想いが胸に響きます。

心が穏やかになり、感謝の念が湧き出てきます。

## 安寧念う祈りこそ

仏さま(亡くなられた人)にお唱えが届いて心安らかにいい供養になったのでは・・・と自分自身の安らぎになっています。

新しい仏さまの前でお唱えしますと、しみりりとして心が安まります。





インタビュー

平成二十年年度

梅花流全国奉詠大会

ご登壇のあとホッとされている講員さんにご質問しました。みなさん、本当に清らしい、いいお顔でした。



登壇前に法具を確認



宗務所の応援



お弁当が美味しい



福島県 長祿寺 谷沢チエさん



福島県 長祿寺 佐藤恵子さん

全国大会は何回目のご参加ですか？

二回目です。

初めてです。

登壇される時はどんなお気持ちでしたか？

県の大会はよく参加するのですが全国大会はまったく違います。本当にドキドキしますね。あと私、登壇の時は必ずお守りを持って行くんですよ。

お守りですか？

これです。(お作法がギッシリ書き込まれているメモとファイイル)

なるほど、これがあると安心しますね。はい。

これから梅花を始めようとする方に一言お願いします。

お唱えする言葉が素晴らしいですよ。是非始めて下さい。特によく声の出る若いうちからがいいと思います。

ありがとうございます。また来年お逢いしましょう。



長野県 円応院 春日日出子さん



長野県 円応院 倉田眞佐江さん

何回目のご参加ですか？

十六回目です。

七回目です。

ご登壇は緊張されましたか？

鈴鐺を使いませんでしたので緊張はしなかったです。私も今回はドキドキやヒヤヒヤはしませんでした。

ご参加の回数が多いせいか余裕を感じますね。

全国大会は楽しみなんです。この感動が忘れられなくて、あと他県の方とも知り合いになりますから。梅花流の素晴らしい一言をお願いします。

心が落ち着いて静かに自分を見つめ直すことができます。

みなさんも是非、大会にご参加ください。本当に感動しますよ。

ありがとうございます。では、大会を引き続きお楽しみください。

ご参加は何回目ですか？

六回目です。

静岡県第一宗務所(第一日目)

の参加者では最高齢だそうですけど、ご登壇はいかがでしたか？

平常心です。全員で唱えるので緊張感はありませんでした。しかし、静岡県は応援が凄いですね。二階席から身を乗り出しての声援が会場内に響き渡ってました。

おそらく私はこの中で一番下手だけれども、皆に応援されるのもいいもので、がんばろうと思うんです。

梅花の楽しさを一言お願いします。

お寺の行持に参加できることが何より楽しいです。あと、皆さんにもこの素晴らしい大会に一度連れて来て見せてあげたいです。

来年もお友達をたくさんお誘いして参加してください。どうもありがとうございます。



静岡県 松風軒 豊液しのさん

# こころのふるさと

## 平成二十年度檀信徒講習会 行脚記

# 永平寺

「うちまかせ心も身をも」

永平寺

主任講師に岡山県興木淳恵師範、講師に北海道村上秀典師範、長野県鈴木恵道師範、大阪府吉川信隆師範をお迎えして大本山永平寺を会場に檀信徒講習会が開催されました。

福井駅から京福バスに乗り終着の永平寺さまへ。約三分の小さな旅です。こ本山に近づくにつれ、青々とした山々に囲まれた田園風景が広がります。大きく左右にカーブを繰り返して門前に。門前のおみやげ屋さんさんの坂道を登り切ると豊かな大自然の中に龍門が見えてきました。杓底一残水、波流千億人。到着です。さあ、これから永平寺さままで講習が始まります。

「うちならす鐘のひびきは  
そのままに」



左から興木、村上、鈴木、吉川、各講師



興木師範による歩きながらお唱えする講習



休憩時間に寂光苑に行ってきました。



皆さんの幸せをお祈りして鐘を鳴らしました。

寂光苑の権髪像にお参りして向かいにある寂照の鐘へ



永平寺川沿いに行くとお雨の滝がしぶきをあげていました。



一筆習字さまに合掌挨拶

※大本山永平寺さまは福井駅からバスの本数が少ないです。遠くからご参加される方は、門前の旅館に前泊するなど、余裕をもっていらしてください。

# 詠讚歌を通して

宮城県 鳳仙寺講 正詠歌壇 梅田光子



永平寺にて  
新年を迎えると「威儀即仏法、作法是宗旨」と手紙に書くことが習慣で年がはじまります。東京の向島で生まれ、六歳の時に戦火をのがれるため、宮城県に移り住み、中学生の時の教師が今の鳳仙寺の住職でした。成人して東京で暮らしながら住職にすすめられ詠讚歌をはじめました。住職の詠讚歌に対する熱意に心酔し、私もいつの間にか詠讚歌が大好きな人間になっていました。

終の住みかを宮城県に決め、人情と風土に守られながら両大本山の梅花講習会、特派講習会には必ず出席し年毎に勉強して来ました。故宮崎奕保師範さまの「詠道はそのまま仏道」のお言葉。詠讚歌が難しくなるに従って詠讚歌が好きになる自分に気づき始めたのもこの頃です。好きでなければ上手になれない、それが私の体験です。これからもこの詠讚歌を続けていきたいと念じて居ます。そして、ますます研鑽していかねばならないと思っています。

身体を使い、お作法に従って鈴鉦を用い、詠讚歌をお唱えすると云う修行は、修証一等という曹洞宗の教えがそのまま梅花のお唱えに生きてくると思います。お誓いにありますように、梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生き、仲よい生活をし、明るい社会を作るよう、これからも精進して参りたいと思っています。

合掌

# こころのふるさと

平成二十年度檀信徒講習会 行脚記

## 總持寺

「ひたすらにかけの願いは  
あらたかや」

主任講師に岩手県葛西修哉師範、講師に愛知県岩田大法師範、鳥根県森山祐光師範、秋田県佐藤俊晃師範をお迎えして大本山總持寺を会場に檀信徒講習会が開催されました。

鶴見駅から歩いて總持寺さまへ。線路沿いに行くとこの山さまの看板が見えてきます。さらに巨木が空を覆う参道を進んで大きな三門をくぐり抜けると右手に広々とした大伽藍が目に映ります。そして香積台の総受付へ。ここにお祀りされている木彫りで日本一大きいといわれる大黒尊天さまにご挨拶。皆さんの笑顔が楽しみです。

### 優しい 聖観音

「見わたせば功德の海によせかえす  
ひとつひとつの波のきらめき」

平成二十年六月に開眼法要が行われた聖観音さまにお参りしました。



左から森山、葛西、岩田、佐藤、岩根



三松園より聖観音さまに向かいます。



由来を見る参加者  
「白度は納経堂になっています。」



世界の平和と人々の幸せを祈り、心を込めてお願いをいたしました。



大きい聖観音さまに礼拝。



※大本山總持寺さまは鶴見駅西口を出ていただいで徒歩で約十分です。



参加二千六百人が結婚讃歌で祝福しました。



新郎 木下晋治

「静岡県の記念大会で仏前結婚式を挙げる事が出来ました。大変光栄に思います。ご先祖様も喜んでいらっしゃると思います。式師様のお言葉と梅花講員の皆様の祝福は一生の思い出になりました。」



新婦 高子

「結婚式で方丈様、ご寺族様にお唱えていただいた結婚讃歌は、とても素敵で、荘厳な気持ちになりました。大勢の皆様が祝福され、幸せで胸がいっぱいになりました。ありがとうございました。」

み佛との絆をしっかり結ばれたお二人



五十五周年を迎えた静岡県第一宗務所の梅  
花大会で、仏前結婚式が行われ、幸せなお二  
人と参加者全員がみ佛との絆を深めました。  
平成二十年十一月十四日、静岡クラウンシブ

深めようみ佛の絆を

おめでとうございます!



梅花流専門委員  
秋田 昌弘 東泉寺 柴田 弘一

## ぞうだ！梅花をはじめよう！

をキャッチコピーに新たに講師を募集したところ、二十四名が集まってお稽古がはじまりました。もう少し増えそうな気配です。

宗務庁発行の「梅花流詠歌へのおすすめ」「聖号」「三宝御和讃」「正法御和讃」「まごころに生きる」(いずれも洋楽譜付きで無料。送料のみ自己負担)各寺院梅花講で申し込む)この普及版を取り寄せ、お稽古に使用しています。

過日、県の奉詠大会に合わせ、ようやく「教典と輪絡子、梅花服と念珠」を揃え、感激のうちに初登壇奉詠を果たし、愈々梅花に精進しています。法具を揃えるのはあと一年後位を予定しています。今は積立でしょうか、と話し合っているところです。

さて、ワンポイント・レッスンの原稿依頼を受けてハタと戸惑っておりますが、既に発売されている「梅花流詠唱の留意点」に各曲の留意すべき点(ポイント)が示されていますから、おおいに参考にされると良いでしょう。

この「詠唱の留意点」を踏まえながら、私の思いを次に述べてみたいと思います。

## 「ワンポイント・レッスン」

### 基本を習得しよう

1、法具を整えておこう。(点検おこたりになく)

2、指導者の教えを学ぼう。

○詠唱、作法、歌詞内容を、**良く聴き、良く観、良く真似し、繰り返し行すること。**

○難解なところは何回でもやってみよう。

○楽しい梅花を目指して！

3、詠唱について

○略さず、**こだわりながら何度も唱え込もう。**

○拍速を考慮しながら唱えてみよう。

○旋揺についても同様に。

4、作法について

○略さず、**こだわりながら作法し、形を覚えよう。**

5、合掌についての心得

○形をととのえよう。

○合掌にはじまり合掌に終わる。

6、歌詞について

(歌詞内容を知ることによってお唱えが生きてくる)

○歌詞の意味を知る努力をして行こう。

○**まごころはかたちをもとめ かたちはまごころをすすめる。**

を味わいながら精進し、もっと梅花を好きになりましょう。

ありがたい詠唱につながるように。

## 編集後記

坐禅は、身を調え、息を調え、そして心を調えて、心の安らぎを深めます。

また、坐禅を「正心行處」とも言います。正しい心、調った心のすべてに「働く」ということです。



梅花流を研鑽されている皆様は、身の回りがきちんと整理整頓され、いつも心が清らかに映ります。一生懸命に打ち込んでいると、正しい心がしつかりと働いて、自然に坐禅が普段の生活に活かされてきます。梅花大会や本山講習会の皆様方のお姿を見て、坐禅の功德、梅花流詠歌の功德を、今一度再確認させていただきました。さらに、インタビュ等では、満面の笑顔でお答えいただきましたこと、誠にありがとうございました。

これからも「坐禅のまごころ」をもって梅花流に精進し、み仏との出会いを深めてください。

詠道課 書記 Y

曹洞宗のホームページ「曹洞宗ネット」で詠道歌がきけます。

<http://www.sotozen-net.or.jp>

南米ブラジルの梅花講員さんたちや、大本山永平寺、大本山總持寺を始め、各地方の僧堂でご修行中の費水さんの為に、眠っている法具がございましたら寄贈してください。

◆送付先住所 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁伝道部詠道課 宛